

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎多摩総合医療センター

○広尾病院

○駒込病院

○墨東病院

○小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 多摩総合医療センター（基幹施設）

都立多摩総合医療センター施設群整形外科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：整形外科 伊賀 徹 プログラム研修期間：4年

連携施設病院：広尾 / 駒込 / 墨東 / 小児総合

東京大学医学部附属病院 / 自治医科大学附属病院 / 日立総合病院（茨城県）

東京ERを有する3つの総合病院と、がん・腫瘍ならびに小児の2つの専門病院などの3,300床を超えるスケールメリットと豊富な症例を生かした研修を行います。専門性の高い診療を早くから経験することで、整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へとキャリアを形成していくことができます。また、東京都外の地域医療の研修を通じて、社会的需要に対応できる総合診療能力を有する医師の育成を行います。本研修プログラムは、以下の5点の修得を目標としています。①高度・専門領域の豊富な症例と優秀な指導医による指導を通じて専門医資格を取得すること。②領域に偏らない総合診療能力を身につけること。③国内外派遣による先端医療技術の修得や臨床研究などを行うことで、整形外科の専門性を追求し、整形外科の発展に寄与する姿勢を培うこと。④チーム医療の一員として自己研鑽し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くとともに、リーダーシップを身につけること。⑤高い倫理観の元に、整形外科医師として安全・安心で心のこもった医療を患者に提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献すること。専門医受験資格は、整形外科研修の45単位（1か月1単位）の取得、教育研修講演30単位、1回以上の論文発表と学会発表にて得られます。卒業後に義務年限を有する自治医科大学等の卒業医や、地域卒卒業医と出産・育児・留学などで長期にプログラムを中断しなければならない場合、他の領域の専門医研修が修了しさらに整形外科医を目指す場合（ダブルボード）は旧専門医制度に準じた「カリキュラム制」での研修ができます。

実際に自治医科大学卒業医や救急科専門医資格を有する方がカリキュラム制での研修を実施しており、また、一部の指導医も同様の経験や資格を有しています。

研修コースモデル

1年次

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
多摩総合医療センター											

研修開始にあたり、すでに日本整形外科学会に入会をしている必要があります。開始病院は多摩総合とは限りません。

2年次

東大病院	腫瘍など（駒込病院）	地域必修（日立総合病院）
------	------------	--------------

これらは必修研修です。なお、研修時期は2年次とは限りません。また、自治医科大学卒業医リサーチマインド型研修は自治医科大学で行います。

3年次

広尾病院・墨東病院・駒込病院・小児総合医療センター・多摩総合医療センター（応相談）

1～4年次のローレート研修病院と時期及び期間はプログラム委員会にて最終決定されます。

4年次

広尾病院・墨東病院・駒込病院・小児総合医療センター・多摩総合医療センター（応相談）

1月に専門医試験を受験します。

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

新専門医制度 脊椎脊髄外科

プログラム責任者：整形外科 伊賀 徹（増田 和浩） プログラム研修期間：3年

脊椎脊髄外科は主に変性疾患、外傷、骨転移を含む腫瘍、感染等を扱い、患者のニーズが高い。診療においては、正確な診断、適切な手術適応判断、確実な手術手技が求められ、専門医の育成に当たっては多くの診療経験を提供する必要があります。当院での年間手術件数は2020年実績で90件であり、また、他施設と連携することによって多くの症例を経験することができます。

手外科

プログラム責任者：整形外科 伊賀 徹（辰巳 徹志） プログラム研修期間：3年

手外科は主に外傷、変性疾患、先天性疾患の3つの分野があるが、この中で外傷、変性疾患は整形外科の日常診療で頻繁に扱うもので患者のニーズも高い。しかし人間の手はその高い機能のためか構造が小さく複雑でその診療には多くの知識、高い技術、豊富な経験が必要である。また神経や血管を扱うマイクロサージャリーの技術も必要であり専門性が高い。当院では外傷と絞扼性神経障害、関節リウマチなどの変性疾患の治療を多く行っており年間手術件数は300件程度あり手外科の基礎を学ぶことができる。また当院では症例の少ないマイクロサージャリー、手関節鏡、先天性疾患については連携施設で研修を行うことができる。

リウマチ外科

プログラム責任者：整形外科・リウマチ外科 伊賀 徹（永瀬 雄一） プログラム研修期間：3年

整形外科リウマチ専門医は、基本領域である整形外科専門医に直結するサブスペシャリティで、関節リウマチの薬物治療に精通できる。また薬物治療を十分量行っても関節破壊をきたしてしまい生活に支障がある場合には、手術療法を行う。このように横断的かつ縦断的視点に立って治療できる整形外科医が近年減少傾向にある。将来の患者需要に対応するためにも関節リウマチのサブスペシャリティを保持しておくことは必要である。当院には日本整形外科学会専門医のみならず、日本リウマチ学会の指導医もあり、関節リウマチに対する手術件数は年間70-80件で、DPCデータベースでは全国6位である。リウマチ内科医とも密接に連携しており、3年時には東京大学医学部附属病院、相模原病院、湯河原病院などのローテーションを選択できるよう考慮している。

● 広尾病院（連携施設）

指導医責任者：整形外科 川野 健一

連携をしている基幹施設病院：多摩総合

多摩総合医療センターを基幹施設とする整形外科専門研修プログラムの連携病院として専門医資格取得に向けての研修を行っています。当院はJR山手線内の都心部に立地しており、ほぼすべての診療科がそろった総合病院です。東京都の救急システムの中心を担う東京ERを有し、救急診療や島しょ医療にも力を入れています。整形外科は四肢体幹の機能を再建する診療科ですが、その基本は外傷の診療であり、外傷の診断、治療（保存療法・手術療法）を若い頃にしっかり身につけておくことが、より専門的な診療へ進むための足がかりとなります。当科は、ERや救命救急センターと協力し、3次救急までの高度な救急外傷を扱っているため、症例も豊富で外傷治療の研修には最適です。そのみならず、手外科・上肢機能再建外科、脊椎外科、関節外科などの専門医が在籍しており、大学病院レベルの専門性の高い診療を行っています。研修開始時は外傷症例が主となりますが、指導医の元で経験に応じてより専門的な手術も経験できます。当科でのカンファレンスや抄読会、また各種学会への参加により、進歩した新しい医学的知識を身に付けて、最終的に学会発表や学術論文を作成することを研修目標の一つとしています。

研修プログラムとしては、基幹施設である多摩総合医療センター（12カ月）、比較的稀な腫瘍性疾患に対する駒込病院での研修（3ヶ月）、地域医療研修（3ヶ月）、東京大学（6ヶ月）は指定された研修期間となりますが、その他の期間をどの施設で研修するかはある程度希望に沿うことができます。

研修コース
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	多摩総合医療センター											
2 年次	東京大学						駒込（腫瘍）			地域		
3 年次	広尾病院											
4 年次	広尾病院						自由選択			広尾病院		

● 駒込病院（連携施設）

指導医責任者：整形外科・骨軟部腫瘍科 杉田 守礼

連携をしている基幹施設病院：多摩総合

駒込病院は文京区の閑静な住宅街の中に佇む歴史ある病院です。古くは「駒込ピペット」で知られる感染症の研究所に始まり、現在では東京都のがん拠点病院として最先端の医療を行っています。特に他の病院で接する機会の少ない骨・軟部腫瘍は、国内有数の症例数を誇ります。また脊椎腫瘍に対して、脊椎骨全摘術などの世界トップクラスの手技を駆使して、積極的に取り組んでいます。主に脊椎疾患と人工関節を扱う整形外科と、骨・軟部腫瘍に特化した骨軟部腫瘍科とが独立して診療を行っており、定期的にカンサーボードを開催して密に連携しています。学会発表や論文執筆の機会が多く、スタッフは教育熱心ですので、多大な経験が積めると確信します。得意な分野・手術は脊椎疾患、骨・軟部腫瘍、脊椎腫瘍、人工関節です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	駒込病院・整形外科						駒込病院・骨軟部腫瘍科					
	研修開始にあたり、すでに日本整形外科学会に入会をする必要があります。開始病院は駒込病院とは限りません。											
2 年次	東大病院						地域必修（西島病院）			多摩総合		
	リサーチマインド型研修は必須で東京大学附属病院で行います。研修時期は2年次とは限りません。											
3 年次	多摩総合						広尾病院					
	1～4年次のローテート研修病院と時期及び期間はプログラム委員会にて最終決定されます。											
4 年次	墨東病院									専門医試験	自由選択	
	45 単位取得後に専門医受験資格が得られます。											

● 墨東病院（連携施設）

指導医責任者：整形外科 山川 聖史

連携をしている基幹施設病院：多摩総合

本プログラムは、多摩総合医療センターを基幹施設とし、墨東病院、広尾病院、駒込病院および東大病院などの連携施設で研修して整形外科専門医取得を目標とします。墨東病院は、区東部医療圏の中心的急性期病院であるため、整形外科の基本である外傷研修に適した環境にあります（小児症例も豊富）。関節疾患や脊椎疾患などの一般的な変性疾患も学ぶことができます。主担当医として、入院から退院までの診断・治療を通じ、患者の全身状態、社会的背景を的確に把握し、患者ごとに適した医療を提供できることを目標とします。本研修期間には、基本的な外傷を中心に、脊椎や人工関節なども含めて、できるだけ数多くの術者を経験していただきます。また、日常診療の他に学術的な活動も重視し、地域の整形外科セミナー、整形外科関連の学会や学術講演会などに積極的に参加し、発表する機会をもちます。本プログラムに関係する基幹施設、連携施設においては、上記以外にも、手の外科、末梢神経、骨軟部腫瘍などほぼすべての領域で専門的かつ高度な医療を行っています。したがって整形外科専門医を取得の上、将来の希望のサブスペシャリティ領域に繋がる研修をすることも可能です。以上より、本プログラムにおいてはバランスのとれた研修を行うことができます。研修希望の方の応募をお待ちしています。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	墨東病院											
2 年次	地域医療			駒込病院			東大病院					
3 年次	多摩総合医療センター											
4 年次	多摩総合医療センター						自由選択			墨東病院		

○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

リウマチ外科

プログラム責任者：リウマチ膠原病科 西川 卓治 プログラム研修期間：3 年

研修目標は、①関節リウマチの病態を理解すること、②正確な診断がつけられること、③適切な薬物療法を行えること、④破壊の進んだ関節に対して専門性の高い手術が行えること、⑤患者の状態を総合的にとらえ社会支援の導入ができることの5点である。整形外科医にしかできない手術療法については、全身状態や軟部組織・骨の脆弱性などリウマチの特性をよく理解した上で、人工関節全置換術（手 MP・肩・肘・股・膝・足関節）、関節形成術および腱移行術（手関節）、関節固定術（手指・手関節・足関節）の適応および正確な手術手技を取得する。整形外科系の学会や日本リウマチ学会での発表を行い、論文発表をめざす。最終的に、日本整形外科学会リウマチ専門医および日本リウマチ学会認定医が取得できるまでの知識および技量を身につけられるようにする。